

自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施

研究分担者:岩橋恒太(特定非営利活動法人 akta 理事長)

研究協力者:金子典代、高久道子(名古屋市立大学看護学部)

高野操、岡慎一、林田庸総(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター)

本間隆之(山梨県立大学看護学部)

健山正男、宮城京子(琉球大学医学部)

荒木順子、木南拓也、藤原孝大、Diego Tavares Vasques、小山輝道、鈴木敦大(特定非営利活動法人 akta/community center akta)

浅沼智也(カラフル@はーと/community center akta)

生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥(特定非営利活動法人ふれいす東京)

玉城祐貴、赤嶺友紀、兼城将(nankr 沖縄 / コミュニティセンターmabui)

中山保世、小日向弘雄(東新宿こころのクリニック)

今村顕史(がん・感染症センター 都立駒込病院)

市川誠一(人間環境大学大学院看護学研究科)

研究要旨

我が国の HIV 新規感染報告者数の 7 割は男性同性間の性的接触による感染であり、ゲイ・バイセクシュアル男性は HIV 感染の早期発見のための検査受検勧奨の重要なターゲット層となっている。UNAIDS(国連エイズ合同計画)は以下の 3 つを達成できれば、2030 年にはエイズは公衆衛生上の脅威ではなくなることを示し、90-90-90 戦略として打ち出している。その 3 つとはすなわち、①HIV 感染者のうち 90%が診断されていること、②診断された感染者のうち 90%が治療を受けていること、③治療を受けているもののうちウイルス量が抑制されている患者数が 90%であることである。日本では、②、③はほぼ到達できていることが先行研究等により示されているが、我が国の男性と性行為を行う男性(Men who have sex with men:MSM)では感染者の 90%が感染ステータスを把握する状況には未到達である。今後のわが国での新規 HIV 感染者とエイズ患者の報告を減少させるためには、従来の公的機関や医療機関にて提供される検査以外の手法も検討し、MSM の検査機会を拡大させる必要がある。

本研究では、コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用したハイリスク MSM 層の受検推進とこのコミュニティベースの DBS 法を用いた HIV 検査の事業化に向けた検討を図る。また本検査手法を用いて、受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。

なお、本研究の前身となる取り組みが平成 26 年度から平成 28 年度にかけて国際医療研究開発費疾病研究分野「UNAIDS が掲げる臨床評価指標 90-90-90 達成のための男性同性愛者に対する

新しい HIV 検査システムの構築に関する研究(研究代表者:岡慎一)」として実施された。平成 27 年 8 月から平成 28 年 12 月までに 1,702 件の検査キットを配布し、1,403 件(陽性 34 件)の回収実績を得ている。本研究はこの先行研究をもとに、HIV 検査の hard to reach 層を指定し、更に検査キットの配布場所と配布対象者を拡大する。新宿地域での配布に加え、沖縄など他地域の地方のコミュニティセンターでの配布の試行、さらにハッテン場(性行為を目的とした MSM の出会いの場)等での出張配布、英語であれば説明文章の理解とコミュニケーションをとることが可能な外国籍 MSM を対象者に加え、拡大する。また、研究参加者の検査結果と自記式質問紙調査データを研究 ID により連結させた血清行動疫学調査を実施する。

A. 研究目的

コミュニティセンターや MSM をサポートする NGO、そして医療機関とが連携し、検査キットを活用した HIV 検査を MSM に提供し、MSM の有病割合を明らかにする。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施し、本研究が MSM の HIV 検査促進に寄与したかどうかを評価するとともに、陽性者の検査行動、リスク行動の特性を明らかにする。

B. 研究方法

指先の血液を絞り出し、ろ紙に垂らす。乾燥させたろ紙血を国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター(ACC)へ郵便で送付する。ACC ラボで HIV 一次スクリーニング検査を実施する。一次スクリーニング検査で陽性または判定保留となった検体は、国立国際医療研究センター中央検査部にて二次スクリーニング検査を実施し、両者の結果をもとに総合判定を行う。研究参加者は本研究のホームページにて検査結果照会画面にアクセスし、検査キットに付された研究 ID およびパスワードを用いてログイン後、自身の検査結果を確認する。スクリーニング検査で判定保留または陽性となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」と結果を表示し、本研究の協力医療機関へ受診するよう促す(結果画面から協力医療機関の受診予約が可能)。研究参加の同意取得は無記名で行い、

DBS によるスクリーニング検査の結果参照まで無料・匿名で実施する。確認検査のために医療機関を受診した時点から一般診療(非匿名、有料)として扱う。

研究の主要評価項目

(1) HIV 検査キットを利用した MSM の HIV 感染症 有病割合

研究の副次的評価項目

- (1) 検査キット配布地域、配布場所別の HIV 感染症有病割合
- (2) 検査キット利用者のうち、過去 1 年以上 HIV 検査を受けていない MSM の割合
- (3) 検査キット利用者のうち、生涯に HIV 検査を受けたことがない MSM の割合
- (4) 検査キット配布地域、配布場所別受検者の検査行動、リスク行動
- (5) HIV 感染が判明した MSM の検査行動、リスク行動の特性

対象

以下の条件を全て満たすものを本研究の対象者とする。

- (1) 20 歳以上で、男性と性行為経験のある男性(MSM)
- (2) 日本語または英語を理解できる者
- (3) 研究説明同意文書を読み、研究参加の意思を示した者

研究期間

倫理委員会承認後(2018年2月)～2020年3月

東京都内の保健所および公的 HIV 検査所で実施されている HIV 検査件数は年間約 20,000 件であり、そのうち MSM の受検者の割合は「エイズ予防のための戦略研究」の結果から 6.6%～12.4%と考えられる。仮に MSM 受検者の割合を 10%と推定した場合、都内の保健所等で HIV 検査を受ける MSM は年間約 2,000 件である。

本研究では、保健所および公的 HIV 検査所における年間 MSM 受検者数の約半数に相当する MSM(年間 1,500 件)に対して、本研究の検査を提供することを目標として実施する。

研究ホームページ「HIVcheck.jp」の構築

本研究は不特定多数の MSM を対象とするため、本研究に係るホームページを開設し、研究内容の周知を図る。本研究の概要、検査の流れ、検査キット受け取り方法、結果の受け取り方、検査に関する Q&A、その他支援情報等を掲載する。ホームページはスマートフォン、パソコン対応とする。サイトには下記情報を含むものとする。

- ①研究の概要(対象、研究期間、研究組織、問い合わせ先)
- ②本研究での検査キットを活用した検査の流れ
- ③検体採取の方法(動画を含む)
- ④HIV 検査に関する Q&A(ウィンドウピリオド、結果の解釈など)
- ⑤HIV 感染症に関する Q&A(早期検査の意義、陽性判明後の治療や生活など)
- ⑥支援情報(利用可能な電話相談、HIV 検査情報、HIV の基礎情報や陽性後判明後の治療や生活について情報提供している Web サイトの紹介)

⑦具体的な研究参加の手順と検査キット受け取りの流れ

- 参加基準に合致するかの確認
- 研究参加への同意
- 質問紙調査への協力をお願い
- 質問紙調査の結果と血液検査の結果を連結することについての同意
- 検査キットの配布
- 相談員による対面相談の提供
- 本研究に関する問い合わせ先

⑧スクリーニング検査結果照会画面

各検査キットに封入された検査カードには、検査キット固有の研究 ID と検査結果閲覧に必要なパスワードが記載されている。検査結果照会画面にこの研究 ID とパスワードを入力し、検査結果を参照できる。検査結果の表示には以下の内容が含まれる。

- 結果の解釈に関する情報
- 結果に関する問い合わせ先
- 相談窓口

⑨確認検査受診申し込み

スクリーニング検査の結果が陽性判定または判定保留となった場合は、確認検査が必要なため、結果画面に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を明示する。受検者は同 Web サイトより、受診を希望する医療機関(国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター、東新宿こころのクリニック、都立駒込病院)と日時を選択する。予約確定後、当該医療機関宛の情報提供書が発行される。

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報

MSMを対象にHIVの予防啓発を行っているNGOと連携し、検査キット配布地域のゲイコミュニティに対して、本研究で実施するHIV検査の内容や研究ホームページ、検査キットの配布場所を広報する。

具体的には、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした出会い系ソーシャルネットワークサイトにおいてバナー広告を設置し、研究ホームページにリンクする。また、ゲイバーやクラブイベントにおけるチラシの配布、ゲイショップにおける折り込みチラシ、ハッテン場におけるチラシの設置など、本研究の広報を段階的に拡大する。

検査キットの配布と自記式質問紙調査の実施

研究参加希望者は、新宿やその他の地域に設置されたコミュニティセンターakta(厚生労働省の事業費で設置されているMSMのHIV予防啓発拠点)、またはゲイ向け商業施設内に設置する出張ブースに来場する。訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、研究参加者の適格基準を確認する。本検査は研究として実施している検査である事、血液の採取方法、結果の受け取り方、陽性となった場合の医療機関への受診の流れ、問い合わせ先等、説明文書に沿って説明し、研究参加について同意を得る。同意を得た研究参加者に対してHIV検査キットを配布する。また同時に、自記式質問紙調査への回答協力を依頼する。自記式質問紙調査は無記名で行うが、検査結果との連結に同意した参加者の質問紙には、検査キットに付された研究IDラベルを貼付する。

血液の採取と検査申込み

研究参加者は検査キットを自宅などに持ち帰り、検査キットに同封された検体採取の説明書を参考にして、ランセットを用いて自身

の指先を穿刺し、ろ紙に血液をしみこませる。検体(血液をしみこませたろ紙)、使用済ランセットを返送用封筒に入れて、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付する。なお、ランセットは、1回のみ使用できる器具で試し打ちは出来ないようになっている。針は、穿刺後自動的に格納される。受検者は検査キットに同封された検査キット固有の研究IDと仮パスワード(研究参加者自身が何度でも変更が可能である)が記載されたカードを保管する。

検査キットを持ち帰ったものの、研究参加を取りやめ、検査キットが不要になった場合は、各自が居住する自治体のルールに従って廃棄する。廃棄の方法が不明である場合は、国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センターラボに送付しても構わない。

検査の受付と HIV スクリーニング検査の実施

ACC ラボにて検体を受領後、検査担当者は、検査受付(ID登録)を行い、スクリーニング検査を実施する。スクリーニング検査で陽性となった検体は、国立国際医療研究センター 中央検査部にて二次検査を実施し、HIV感染の有無を判定する。結果を検査システムに入力する。

検査結果の通知

研究参加者は、研究ホームページの検査結果照会画面より、検査カードに記載されたキット固有の研究ID、パスワードを入力してログインし、検査結果を閲覧する。

検体がラボに到着していない場合は「未到着」、結果が出ていない場合は、検査中と表示する。スクリーニング検査陰性の場合「陰性」、判定保留または陽性の場合「確認検査が必要です」と表示する。検体量が不

足するなど検査ができなかった場合は、「判定不能」と表示する。

検査結果照会画面には陰性または要確認検査の意味、結果の解釈を表示する。また、HIV検査に関する疑問や不安が生じた際の相談窓口を明示する。

確認検査の実施(研究結果の取り扱いと医療の提供)

HIVスクリーニング検査陽性または判定保留となった研究参加者に対しては、「確認検査が必要です」という結果表示に引き続き、確認検査を受けることが出来る医療機関を同研究ウェブサイト上で明示する。受診希望の医療機関を選択後、受診希望日、時間を選択する。また、同サイトから当該医療機関宛の情報提供書を発行する。

確認検査が必要となった者は、選択した日時に予約医療機関を受診する。他の医療機関または保健所での確認検査を希望する者に対しても、関係機関宛の情報提供書を発行し、受診の際には、情報提供書を持参するよう促す。

スクリーニング検査陽性または判定保留者に対する診療は一般診療であり、通常の医療機関受診と同じく、有料、実名診療となる。確認検査にて陽性が確定した場合には、各医療機関で告知を行い、必要に応じて専門医療機関を紹介する。感染症法に基づく発生届の作成と提出は、確認検査実施施設にて行う。

支援情報の提供

研究ホームページには、検査・相談・医療に関する情報サイトをリンクし、支援環境の周知に留意する。本研究の実施に関する相談窓口、検査や検査結果受領後の不安に関する相談窓口を明記する。

本研究で用いる検査

HIVスクリーニング検査キットの内容：
検査説明書、検査カード(ID/パスワード控え、支援情報等)、返信用封筒、穿刺血採取キット(ランセット、消毒綿、絆創膏、ろ紙)

HIV検査の流れと判定基準

HIV検査手順は、米国CDCが推奨するHIV検査手順(2014年6月27日改訂)4)に準じ、第四世代のHIV-1/2スクリーニングを行い、その後、別の検査試薬を用いてHIV感染の有無を判定する。

①ろ紙にしみこんだ乾燥血液をパンチで打ち抜き、リン酸バッファー液(PBS) 600 μ Lにて溶出。

②この溶出液 200 μ Lを検体として富士レビオ社のルミパルスOR HIV Ag/Abキット(第4世代キット)を用いてHIV-1およびHIV-2のスクリーニング検査を行う。

③陰性の場合には、この段階で陰性の判定。

④陽性の場合には、国立国際医療研究センター中央検査部にてシスメック社のヒスクルHIVAg/Ab(第4世代検査キット)を用いて二次検査を行い、最終判定する。判定保留例と陽性例は、研究ホームページ上で「確認検査が必要です」と表示する。

⑤検体量が不十分、もしくは何らかの理由で検査が出来なかった場合には、もう一度自己穿刺血の再送を促す。

HIVスクリーニング検査の結果表示に対する説明

①陰性:今回の検査ではHIV感染は認められませんでした。HIV陰性と判定いたします。なお、今後も年2回の検査をお勧めいたします。

②確認検査が必要です:より精密な検査(確認検査)が必要です。下記提携医療機関では、精密検査(確認検査)を実施しています。い

れかの医療機関を選択し、確認検査予約画面に進んで下さい。医療機関を受診する際には、予約確定後に表示される情報提供書を印刷して持参して下さい。当日は保険証をご持参ください。他の医療機関または保健所での検査をご希望の場合も、情報提供書を印刷して持参することをお勧めします。

③判定不能:今回送っていただいた血液では、量が不十分、もしくは何らかの理由で検査ができませんでした。再度検査キットを受け取り、検査していただきますようお願いいたします。

倫理面への配慮

本研究については、名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会により実施の承認を得ている(2017年12月12日承認、ID番号17017-3)。あわせて、国立研究開発法人国立国際医療研究センター倫理委員会により実施の承認を得ている(2018年2月9日承認、承認番号NCGM-G-002463-00)。

また本研究計画は対象者リクルート前にUMINに登録し、公開を行っている(UMIN 試験ID:UMIN000031460、受付番号:R000035885、試験名:MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究「自己検査キットによる検査機会の拡大と血清行動疫学調査の実施」)。

①検査キットを受け取りに来場した者(研究参加希望者)に対して、十分な訓練を受けたコミュニティセンターのスタッフが、説明同意文書の内容に沿って本研究の説明を行う。検査結果と自記式質問紙の回答内容との連結については、研究参加者の任意とし、拒否する場合も本研究の検査の参加を妨げない。研究参加希望者は、自由意思に基づき研究参加の意思を決定する。説明同意文書末尾に設けられた同意欄にチェックが入った場合、研究参

加の同意が得られたものとする。本研究は匿名で実施することから、署名は不要とする。説明同意文書の原本は名古屋市立大学が保管し、控えを研究参加者に手渡す。

日本語は読めないが、英語で理解が可能な外国籍のMSMに対しては、英語の説明同意文書を用いて、研究参加者の求めに応じて英語で口頭にて説明し、研究参加の意思を確認する。そのため、検査キット配布会場に英語が話せるスタッフを配置する。検査キットの使い方説明書は日本語と英語で準備し、結果参照画面は日本語と英語の併記でホームページを作成する。

②プライバシーの保護と研究参加者の識別

研究参加の同意から検査キットの配布、検査結果の通知まですべて匿名で実施する。そのため、対応表は存在しない。検査結果は検査キットに付された研究IDで管理され、受検者は研究IDとパスワードで結果の閲覧を行う。

研究参加者に対する自記式質問紙調査では、性的指向や年齢、居住地域を収集するが、名前や住所、連絡先など個人を特定できる情報は収集しない。研究で収集したデータはすべて研究IDで管理する。研究で収集したデータを取扱うのは本研究に参加する研究者のみとし、本研究以外の目的には使用しない。研究者は、データの取扱いに十分注意し、研究代表者および研究協力者は適切な取扱いがなされるよう必要な対応を行う。

なお、本研究のホームページにアクセスした人のIPアドレスは研究終了後適切に削除する。

③収集データおよび試料の保管と廃棄

本研究の参加同意書および自記式質問紙の原本、本研究で収集したデータは、研究終了の報告後少なくとも5年間は名古屋市立大学看護学部で保管する。廃棄する場合は、印刷資料、電子媒体データなど、いずれの資料も

物理的に内容の読み取りが不可能な状態にした後で廃棄する。書き換え不可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に破壊した上で適切に廃棄する。書き換え可能な電子媒体のデータは、読み取り不可能な状態まで物理的に電子媒体を破壊して廃棄するか、ダミーデータを複数回上書きして、元のデータを復元不可能な状態にする。

研究参加者から受領したろ紙の残血液は、研究終了の報告後少なくとも5年間は国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターラボにて保管する。保管期限を過ぎたろ紙を廃棄する場合は、通常の血液検体と同様の方法で廃棄する。溶出液は検査後感染性廃棄物として廃棄する。検体を本研究以外の目的に使用することはない。

④研究参加者からの相談等への対応

本研究に係る問い合わせ先および研究代表者の情報を研究ホームページ、説明同意文書、検査キットに明記し、研究参加者などからの相談に対応する。

C. 研究結果

1. 検査キットの配布および相談支援

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19-22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行った。配布時に、ふれいす東京の専門相談員が同時間、コミュニティセンターaktaに控えている。相談を希望する研究参加者には相談員を紹介し、相談支援を行っている。

コミュニティセンターaktaでの通常の配布は、平成30年2月26日から平成31年3月25日までに、53回実施した。検査キットの配布数は990個で、相談は220件だった。なお今年度実施した、ハッテン場での配布2回、スペシャルデー1回、コミュニティセンターmabuiでの配布1回の合計は、検査キットの配布数が100個、相談が21件だった。そのた

め、今年度の総計は検査キットの配布数が1,090個、相談が241件だった。

2. スクリーニング検査の検体受付と検査の実施

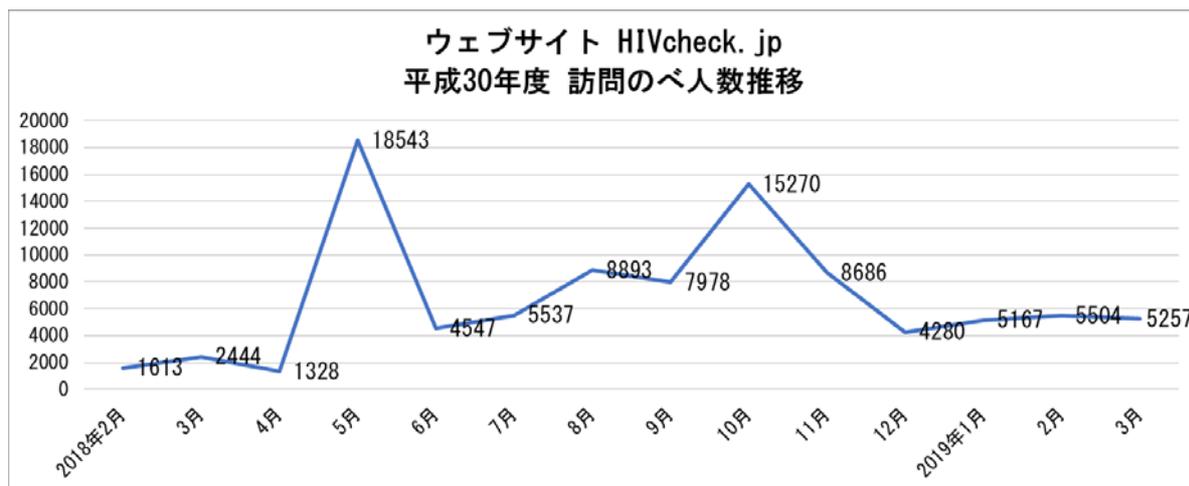
HIVcheck.jpでは、研究参加者が自宅等で採血をし、検査キットの中にある返送用封筒を使用して、国立国際医療研究センターACCのラボに郵送を行う。ラボに届いた検体は順次検査を実施し、平均で到着後2~3日の間には、研究参加者に検査結果を戻している。

平成30年2月から平成31年3月末までの総数での検体の回収数は847個であり、今年度の検査キットの回収割合は77.7%となった。なお、コミュニティセンターakta以外での配布基点について紙幅の関係上、今年度は分けての報告は行わないが、ろ紙にマークを付すなどして区別が可能となるようにしている。

今年度のスクリーニング陽性の件数は20件であり、暫定陽性割合は2.36%だった(ただし、すでにこの研究期間にHIVcheck.jp自体を定期的に利用している研究参加者が含まれるため、陽性割合の検討には更なるデータ分析が必要とされる)。今年度回収した検体のうち、検査を実施できなかったものは2件だった。ろ紙に着けられた血液量が極度に足りないもの、また返送時に消毒綿とろ紙を一緒に回収用の袋に入れてしまい、血液がろ紙に拡散してしまったものがあった。

3. 研究ホームページ「HIVcheck.jp」の運営とゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした広報・啓発

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出



会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは、今年度、平成30年5月と10月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「新宿二丁目ですター！」と「定期的に受けられる！」とした。特に10月に実施したキャンペーンテーマでは、国際的なエイズ対策の文脈では、MSMに対して年1～4回の定期的なHIV検査の受検勧奨が推奨されていることを踏まえ、「定期的」というメッセージを込めた。5月のキャンペーンではゲイ雑誌と連携してHIVcheck.jpの特集記事を掲載し、10月のキャンペーンでは特集ウェブページを作成、公開をした。

平成30年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のアクセス数について、のべ95,047人となった。なお分析には、google analyticsを用いた。キャンペーンを実施した5月と10月には、顕著にアクセス数が伸びている。また、使用しているデバイスは、スマートフォンが91.0%、タブレットが4.6%、PCが4.4%と、スマートフォンに注力した啓発、ウェブ施策が必要ながわかる。ユーザーがアクセスする際の地域でみると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で60%を超えていた。一方で、大阪府(15.2%)、愛知県(5.3%)からのアクセスもみられた。

HIVcheck.jpのコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「特集ウェブページ(2018年10月公開)」、「サポート情報」がそれに続いた。今年度はウェブ上での支援情報の追加を図った。1つは、2018年10月よりスクリーニング陽性となった研究参加者のみ見られるページに、ふれいす東京が運営するHIV陽性者と確認検査待ちの人を対象とするウェブチャット形式の相談窓口「ポジティブチャット」の情報提供を開始した。もう一つは、スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの企画、撮影を実施した(平成31年度公開予定)。

4. 自記式質問紙調査の実施 (資料2)

HIVcheck.jpでは、検査キット配布時に研究参加同意書とともに5分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼している。また、同意書にて同意した参加者にのみ、検査のIDが掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施している。本報告での分析対象者は、2019年1月上旬までにコミュニティセンターaktaで検査キットを受け取った者(他ベニュー受け取り者を含まず)に限定した。分析対象となった回答者数は、715件であった。20歳代が318件

(44.5%)、30歳代が239件(33.4%)、40歳以上が158件(22.1%)だった。以下では年齢階級別にみていく。

検査キットを受け取ってから検査ラボに検体を送付する割合について、全体で79.8%がラボに検体を送付していた。国籍については、全体で67件(9.4%)が日本国籍以外の者だった。居住地は、全体で東京都が505件(70.6%)、神奈川県が77件(10.8%)、埼玉県が60件(8.4%)、千葉県が32件(4.5%)だった。

コミュニティセンターaktaの認知については、全体で「来たことがある」が284件(39.7%)、「知っていたが、来たことがなかった」が245件(34.3%)、「今まで知らなかった」が186件(26.0%)だった。「今まで知らなかった」について年齢階級別にみると、20歳代が33.0%、30歳代が20.5%、40歳代以上が20.3%だった。

HIVcheckを受けるきっかけ(複数回答)は、全体で「定期検査として」が68.5%と最も多く、「リスク行為があった」25.2%、「友人知人の勧め」15.8%、「新しいパートナーができた」12.9%と続いた。年齢別にみると、「リスク行為があった」は、20歳代が30.2%、30歳代が20.1%、40歳代以上が22.8%であり、

「友人知人の勧め」は、20歳代が22.3%、30歳代が10.0%、40歳代以上が11.4%だった。

保健所や検査所、クリニックなど既存の検査施設ではなく、HIVcheckを選んだ理由(複数回答)は、「自分の都合の良い時に受けられる」が75.8%と最も多く、「検査場所に行かなくてよい」が49.0%、「信用できそう」が16.5%、「友だちや友人の勧め」が15.9%、

「ゲイに理解のある相談員がいる」が15.9%、「コミュニティセンターaktaでやっている検査だから」が15.1%、「人と会う回数が少ない」が13.0%と続いた。生涯のHIV検査受検経験は、全体で74.6%があった。年齢別にみると、20歳代が62.7%、30歳代が

84.9%、40歳代以上が82.9%だった。一番最近HIV検査を受けた場所では、「保健所・保健センター」が45.7%と最も多く、「病院・診療所・クリニック」が15.1%、

「HIVcheck.jp」が13.6%、「南新宿検査・相談室」が13.4%と続いた。なお、市販の郵送検査については4.2%だった。

5. 沖縄地域での HIVcheck の試行

コミュニティセンターakta 以外のコミュニティセンターにて、HIVcheck.jp を実施できるかのフィージビリティを測る試行を、平成31年2月16日(土曜)に沖縄県那覇市にあるコミュニティセンターmabui で実施した。

実施にあたり、琉球大学医学部およびnankr沖縄/コミュニティセンターmabui と検討を重ね、沖縄地域に合った形式での実施計画を練った。なお沖縄地域でスクリーニング陽性という結果を受け取った場合は、琉球大学医学部附属病院が確認検査の受け入れ機関となった。

2018年10月にはコミュニティセンターmabui のスタッフを対象に、コミュニティセンターakta で HIVcheck.jp に関する研修会を実施した。また、2月15日にはコミュニティセンターmabui にて、沖縄県における保健所等HIV検査従事者を対象とした研修会を共催し、その場で HIVcheck.jp について報告を行っている。コミュニティセンターmabui での検査キット配布は、2019年2月16日(土)の13時~16時に実施した。検査キットの受け取りは22名、相談利用は9名だった。平均年齢は32歳で、20歳~40歳の幅広い層が受け取った。

6. ハッテン場での HIVcheck の試行

コミュニティセンターakta には HIV 検査を受け取りに来られない人、また、たまたまそのベニューにいた人で HIV 検査受検を希望する人を対象に、都内ハッテン場にて HIVcheck.jp の施行を行った。

日頃より、コミュニティセンターakta の啓発活動に協力関係のあるハッテン場オーナーと意見交換を行い、まずは今年度、都内のハッテン場1施設で試行することとなった。コミュニティセンターではない場所で検査キットを配布するリスクや、セックスを楽しむ場所での検査キットの配布によるベニューのムードを壊さない方法などについて、検討を行った。広報は当該のハッテン場のもつホームページや店舗でのポスター掲示、ハッテン場情報サイト等に限定して行った。

検査キットの配布は2018年6/9(土)、11/10(土)のお店の利用者が集中する17時～22時に行った。検査キットの受け取りは6月が24名、11月が25名で、相談は6月が0件、11月が5件だった。

D. 考察

我が国のMSMにおいて、エイズ施策の指標であるケア・カスケードの第一段階である、HIVに感染している者の90%が感染ステータスを知る状況には達していない。また、MSMに対してHIV検査の定期的な受検勧奨が、現場レベルで地道な実践がなされているものの、他国のように政策的に根拠をもったかたちで行われていない。更なる検査の促進が必要とされる。

本研究では、保健所等公的機関など、既存の施設でのHIV検査以外の検査手法、すなわちコミュニティベースのDried Blood Spots(DBS)法を用いたHIV検査を提供する。さらに、コミュニティセンターを基点とした検査キットの配布が、地域に居住するMSMの受検促進に有効な手法になり得るかを明らかにすることができる。また、検査キットを用いた検査であることから持つ、HIVcheckのモビリティの高さを活かし、akta以外の地域、特に地方のコミュニティセンターや、セックスの現場に近いハッテン場等のMSMの利用するベニューでの検査機会の提供を試行することができる。

そして、本研究では検査キットを配布した地域・ベニューにより、MSMのHIV有病割合が異なるのかを評価することができる。さらに、検査キット配布時に行う、自記式質問紙調査の回答内容と、感染ステータスをリンクさせた、血清疫学調査を実施することにより、配布地域、ベニューによるMSMの検査行動やリスク行動の違いがあるのかだけではなく、HIVスクリーニング陽性MSMの検査行動、リスク行動の特性を検討し、明らかにすることができる。

E. 結論

平成30年2月26日より、毎週月曜日の19～22時まで、コミュニティセンターaktaの場で検査キットの配布を行い、平成30年2月26日から平成31年3月25日までに、53回実施した。検査キットの配布数は990個で、相談は220件だった。

検査ラボにおける、平成30年2月から平成31年3月末までの総数での検体の回収数は847個であり、今年度の検査キットの回収割合は77.7%となった。また同期間のスクリーニング陽性の件数は20件であり、暫定陽性割合は2.36%だった。

HIVcheck.jpの広報・啓発はコミュニティセンターaktaの啓発機能を活用し、新宿二丁目や首都圏にあるゲイ向け商業施設へ啓発資材の配布を行ったり、ゲイ・バイセクシュアル男性の間で特に活用されているGPS機能付き出会い系アプリ、ウェブサイト、また全国紙であるゲイ雑誌と連携して広報を実施した。HIVcheck.jpの大規模キャンペーンは平成30年5月と10月に実施した。それぞれキャンペーンテーマを設定し、「新宿二丁目スタート!」と「定期的に受けられる!」とした。

平成30年度のウェブサイト「HIVcheck.jp」のアクセス数について、のべ95,047人となった。キャンペーンを実施した5月と10月には、顕著にアクセス数が伸びていた。ユーザーがア

クセスする際の地域でみると、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県で 60%を超えていた。HIVcheck.jp のコンテンツでは、「よくある質問集」が最も多くみられており、「特集ウェブページ(2018 年 10 月公開)」、「サポート情報」がそれに続いた。

今年度はまた、ウェブ上での支援情報の追加を図った。1 つは、スクリーニング陽性となった研究参加者のみ見られるページに HIV 陽性者と確認検査待ちの人を対象とするウェブチャット形式の相談窓口の情報提供を開始し、さらに、スクリーニング陽性という結果を受け取り、HIV 感染症の初診までの流れを伝える、ウェブムービーの企画、撮影を実施した。

検査キット配布時に研究参加同意書とともに 5 分間程度のアンケートの記入を研究参加者に依頼しており、同意書にて同意した参加者にのみ、検査の ID が掲載しているバーコードシールを質問紙に貼り、血清疫学調査を実施した。本報告での分析対象者は、715 件であった。20 歳代が 318 件(44.5%)、30 歳代が 239 件(33.4%)、40 歳以上が 158 件(22.1%)だった。国籍は、全体で 67 件(9.4%)が日本国籍以外の者だった。今後更なる分析を進めていく。

今年度は、沖縄県にあるコミュニティセンターmabuiにて、地域の医療機関、行政、そして NGO やコミュニティと連携して配布会を実施した。またハッテン場での HIVcheck の試行を 2 回実施した。

F. 研究発表

論文発表

1) ○Misao Takano, Kohta Iwahashi, Ikuo Satoh, Junko Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Toshiya Fukuhara, Hiroo Obinata, Yasuyo Nakayama, Yoshimi Kikuchi, Shinichi Oka: Assessment of HIV prevalence among MSM in Tokyo using self-collected dried blood spots

delivered through the postal service, BMC Infectious Diseases (2018) 18:627

2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去 1 年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1), 34-44.

3) 岩橋恒太: 文献紹介「Recommendations for HIV Screening of Gay, Bisexual, and Other Men Who Have Sex with Men - United States, 2017」, 日本エイズ学会誌 vol.21 no.1, 2019.

学会発表

1) ○林田庸総, 土屋亮人, 高野 操, 青木孝弘, 湯永博之, 菊地 嘉, 岩橋恒太, 金子典代, 岡慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 検査についての検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

2) ○本間隆之, 岩橋恒太, 金子典代, 高久道子, 荒木順子, 木南拓也, 阿部甚平, 藤原孝大: MSM 向けクラブイベント来場者における HIV 検査未受検者の特性. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

3) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 藤原孝大, 阿部甚兵, 岩橋恒太, 高久道子, 本間隆之: akta 来場者における来場経験別の来場目的、HIV 検査行動、性行動、陽性者の身近さ. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30.12.2-4

4) ○岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイ

- ズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 木南拓也, 本間隆之, 岩橋恒太, 今村顕史 :
コミュニティセンター akta を基点とする
アウトリーチ活動の効果評価. 第 32 回日本エ
イズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 本間隆之, 岩橋恒太, 貞升健志, 長島真美,
生島 嗣, 堅多敦子, 市川誠一, 今村顕史 3
HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅
2017」の実施. 第 32 回日本エイズ学会学術
集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 今村顕史, 堅多敦子, 岩橋恒太, 生島嗣 : A
型肝炎の流行におけるハイリスク層への効
果的な啓発方法の検討. 第 32 回日本エイズ
学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 8) 岩橋恒太, 荒木順子, 木南拓也, 鈴木敦大,

生島嗣, 堅多敦子, 今村顕史 : ゲイ・バイ
セクシュアル男性に向けた A 型肝炎の注意
喚起から見えること ~ コミュニティセン
ターakta を 基点とした経験から. 第 32 回
日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪,
H30. 12. 2-4

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料 1

平成 30 年度 HIVcheck. jp 研究行程表

※毎週月曜日 19～22 時、community center akta での検査キットの配布を継続

4 月

ハッテン場での HIVcheck. jp の実施について、オーナーとの意見交換・調整開始

5 月

5/7 Dr. Stephane Ku ら、台湾研究者チームとの MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

5/13 研究班班会議

5/15 - 21 HIVcheck 認知向上キャンペーン①実施

6 月

6/9 HIVcheck at 都内ハッテン場(新宿)①実施

6/18 HIVcheck スタッフ研修会

8 月

沖縄での HIVcheck. jp の実施について、琉球大学医学部および nankr 沖縄との意見交換・調整開始

9 月

9/2 HIVcheck. jp スペシャルデー(19-23 時)実施

9/9 Dai Aoki ら、オーストラリアのエイズ NGO との MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

10 月

10/5 - 11 HIVcheck 認知向上キャンペーン②実施

10/12～10/15 HIVcheck. jp in 沖縄実施のためのコミュニティセンターmabui スタッフ研修会共催

11 月

11/10 HIVcheck at 都内ハッテン場(新宿)②実施

12 月

12/2-4 日本エイズ学会・学術集会(大阪)発表

12/22-23 研究班班会議

1 月

HIVcheck in 沖縄 実施準備

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの企画・検討開始

2 月

2/11 Nigel Sheriff ら、イギリス研究者チームとの MSM を対象とする HIV 検査普及啓発の意見交換

東京都南新宿検査相談室と HIVcheck に関する意見交換

2/15 平成 30 年度 沖縄県における保健所の HIV 検査従事者等関係者のためのエイズ専門研修会共催(コミュニティセンターmabui)

2/16 HIVcheck. jp in 沖縄(コミュニティセンターmabui)

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの撮影開始

3 月

平成 31 年度 HIVcheck. jp の研究計画の検討

3/22 HIVcheck 研究グループ 中間検討会

確認検査に関するシミュレーションウェブムービーの編集

資料2 受検者アンケート集計（1）

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
ろ紙のラボへの到達					
ろ紙未達	53 17.4%	48 20.6%	39 25.0%	140 20.2%	0.158
ACC到着	251 82.6%	185 79.4%	117 75.0%	553 79.8%	
性指向					
1ゲイ	251 79.2%	209 87.8%	129 81.6%	589 82.6%	0.014
2バイセクシュアル	57 18.0%	27 11.3%	29 18.4%	113 15.8%	
3その他	9 2.8%	2 .8%	0 0.0%	11 1.5%	
Q3_あなたの国籍は?					
1日本	276 86.8%	216 90.4%	156 98.7%	648 90.6%	0.000
2その他	42 13.2%	23 9.6%	2 1.3%	67 9.4%	
Q4_あなたのお住まいは?					
1東京都	217 68.2%	179 74.9%	109 69.0%	505 70.6%	0.465
2神奈川県	35 11.0%	22 9.2%	20 12.7%	77 10.8%	
3埼玉県	32 10.1%	19 7.9%	9 5.7%	60 8.4%	
4千葉県	17 5.3%	7 2.9%	8 5.1%	32 4.5%	
5その他	17 5.3%	12 5.0%	12 7.6%	41 5.7%	
Q5_あなたの現在の職業でもっとも近いのは?					
1正規雇用	171 53.8%	183 76.6%	117 74.1%	471 65.9%	0.000
2非正規雇用（パート・アルバイト・	48 15.1%	23 9.6%	12 7.6%	83 11.6%	
3自由業・自営業・経営	20 6.3%	28 11.7%	23 14.6%	71 9.9%	
4学生	71 22.3%	2 .8%	1 .6%	74 10.3%	
5働いていない	3 .9%	2 .8%	5 3.2%	10 1.4%	
6その他	5 1.6%	1 .4%	0 0.0%	6 .8%	
Q6_過去6か月間に、次のゲイタウンを利用しました					
1チェックあり	56 17.6%	35 14.6%	38 24.1%	129 18.0%	0.056
新宿二丁目	246 77.4%	194 81.2%	109 69.0%	549 76.8%	0.018
上野浅草利用あり	46 14.5%	44 18.4%	34 21.5%	124 17.3%	0.139
渋谷	27 8.5%	16 6.7%	3 1.9%	46 6.4%	0.022
新橋	39 12.3%	43 18.0%	33 20.9%	115 16.1%	0.034
横浜	16 5.0%	6 2.5%	8 5.1%	30 4.2%	0.281
その他	14 4.4%	5 2.1%	10 6.3%	29 4.1%	0.102
Q7_過去6か月の間に、日本で利用した商業施設					
どれも利用無し	16 5.0%	13 5.4%	10 6.3%	39 5.5%	0.842
ゲイバー	220 69.2%	152 63.6%	93 58.9%	465 65.0%	0.072
クラブ	113 35.5%	76 31.8%	34 21.5%	223 31.2%	0.008
有料ハッテン場	144 45.3%	130 54.4%	69 43.7%	343 48.0%	0.049
野外ハッテン場	21 6.6%	10 4.2%	8 5.1%	39 5.5%	0.447
出会い系ウェブ	60 18.9%	38 15.9%	32 20.3%	130 18.2%	0.498
出会い系スマホアプリ	239 75.2%	146 61.1%	90 57.0%	475 66.4%	0.000

受検者アンケート集計 (2)

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
Q8_今回を除き、あなたはこれまで「コミュニティセンターakta」に来たことがありましたか?					
1来たことがある	92 28.9%	115 48.1%	77 48.7%	284 39.7%	0.000
2aktaを知っていたが、来たことがなかった	121 38.1%	75 31.4%	49 31.0%	245 34.3%	
3今まで知らなかった	105 33.0%	49 20.5%	32 20.3%	186 26.0%	
Q9_今回を除き、「HIVcheck.jp」を利用したことがありますか?					
1今回が初めて	298 93.7%	204 85.7%	142 89.9%	644 90.2%	0.007
2キットを受け取ったが、郵送せず	5 1.6%	4 1.7%	0 0.0%	9 1.3%	
3利用したことがある	15 4.7%	30 12.6%	16 10.1%	61 8.5%	
HIVCheckをどこで知ったか					
ゲイバー	36 11.3%	16 6.7%	22 13.9%	74 10.3%	0.051
有料ハッテン場	6 1.9%	6 2.5%	6 3.8%	18 2.5%	0.456
akta	45 14.2%	28 11.7%	18 11.4%	91 12.7%	0.590
出会い系スマホアプリ	131 41.2%	126 52.7%	77 48.7%	334 46.7%	0.022
知り合い	84 26.4%	52 21.8%	22 13.9%	158 22.1%	0.008
Facebook/twitter	69 21.7%	37 15.5%	26 16.5%	132 18.5%	0.132
その他	13 4.1%	19 7.9%	11 7.0%	43 6.0%	0.141
Q11_今回、HIVcheckを受けるきっかけは何ですか?					
定期検査として	196 61.6%	177 74.1%	117 74.1%	490 68.5%	0.002
新しいパートナーができた	40 12.6%	32 13.4%	20 12.7%	92 12.9%	0.957
リスク行為があった	96 30.2%	48 20.1%	36 22.8%	180 25.2%	0.018
STIに罹患した	3 0.9%	2 0.8%	2 1.3%	7 1.0%	0.910
体調不良があった	14 4.4%	9 3.8%	2 1.3%	25 3.5%	0.206
HIV陽性者と性交渉をした	2 0.6%	3 1.3%	4 2.5%	9 1.3%	0.215
友達知人の勧め	71 22.3%	24 10.0%	18 11.4%	113 15.8%	0.000
1チェックあり	8 2.5%	6 2.5%	6 3.8%	20 2.8%	0.689
Q12_今回、保健所や検査所、クリニックではなく「HIVcheck.jp」を選んだ理由					
自分の都合の良い時に受けれる	224 70.4%	190 79.5%	128 81.0%	542 75.8%	0.011
場所を選ばない	136 42.8%	127 53.1%	87 55.1%	350 49.0%	0.012
人と会う回数が少ない	41 12.9%	27 11.3%	25 15.8%	93 13.0%	0.421
検査やHIVについて相談できる	22 6.9%	5 2.1%	16 10.1%	43 6.0%	0.003
ゲイに理解のある相談員がいる	51 16.0%	32 13.4%	31 19.6%	114 15.9%	0.252
陽性の時相談できる場所が明確	11 3.5%	5 2.1%	16 10.1%	32 4.5%	0.000
信用できそう	54 17.0%	26 10.9%	38 24.1%	118 16.5%	0.002
aktaでやっている検査だから	47 14.8%	25 10.5%	36 22.8%	108 15.1%	0.003
陽性の時かかる医療機関が明確	15 4.7%	6 2.5%	11 7.0%	32 4.5%	0.106
友達や知人の勧め	68 21.4%	28 11.7%	18 11.4%	114 15.9%	0.002
Q13_自分のセクシュアリティについて、カミングアウトした人は何人くらいいますか?					
1 いない	58 18.3%	66 27.7%	54 34.2%	178 25.0%	0.001
2 1人	27 8.5%	19 8.0%	17 10.8%	63 8.8%	
3 2～5人	90 28.4%	69 29.0%	45 28.5%	204 28.6%	
4 6人以上	142 44.8%	84 35.3%	42 26.6%	268 37.6%	

受検者アンケート集計 (3)

	20歳代	30歳代	40歳代	全体	有意差
これまでに男性とセックスをしたことがありますか?					
1ない	3 .9%	3 1.3%	2 1.3%	8 1.1%	0.924
2ある	314 99.1%	235 98.7%	156 98.7%	705 98.9%	
過去6か月間に男性とアナルセックスをした人数					
1しなかった	37 12.1%	27 11.8%	34 22.7%	98 14.3%	0.004
2した	268 87.9%	202 88.2%	116 77.3%	586 85.7%	
過去6か月間に男性とのアナルセックス時コンドーム使用頻度					
1過去6か月アナルセックスはしなかった	8 2.8%	2 .9%	3 2.4%	13 2.1%	0.438
2コンドームを必ず使った	104 36.1%	79 37.3%	57 44.9%	240 38.3%	
3使うことが多かった	121 42.0%	84 39.6%	42 33.1%	247 39.4%	
4使わないことが多かった	39 13.5%	35 16.5%	15 11.8%	89 14.2%	
5使わなかった	16 5.6%	12 5.7%	10 7.9%	38 6.1%	
過去6か月間のセックスでの併用品					
いずれも使用無し	265 85.2%	185 78.1%	103 66.0%	553 78.6%	0.000
2ぼっき薬 (バイアグラなど)	31 10.0%	43 18.1%	44 28.2%	118 16.8%	0.000
ラッシュ	11 3.5%	4 1.7%	4 2.6%	19 2.7%	
スピード・エクスタシー (MDMA)	1 .3%	0 0.0%	0 0.0%	1 .1%	0.531
上記以外のセックスドラッグ (合ドラや 静脈注射のドラッグ)	0 0.0%	0 0.0%	1 .6%	1 .1%	0.172
マリファナ・コカイン	1 .3%	0 0.0%	0 0.0%	1 .1%	0.531
過去6か月間に、相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?					
1ない	288 92.0%	231 98.3%	155 99.4%	674 95.7%	
2ある	25 8.0%	4 1.7%	1 .6%	30 4.3%	0.000
これまでにHIV検査を受けたいと思ったことがありますか?					
1ない	14 4.5%	7 3.0%	6 3.9%	27 3.9%	0.673
2ある	298 95.5%	226 97.0%	149 96.1%	673 96.1%	
これまでにHIV検査を受けたことがありますか?					
1ない	118 37.3%	36 15.1%	27 17.1%	181 25.4%	0.000
2ある	198 62.7%	202 84.9%	131 82.9%	531 74.6%	
一番最近に受けたHIV検査の種類 (場所) はどれですか? (検査経験者のみ)					
1保健所・保健センター	105 51.0%	90 43.7%	53 40.5%	248 45.7%	0.005
2病院、診療所、クリニック	26 12.6%	28 13.6%	28 21.4%	82 15.1%	
3手術前・入院時の検査	5 2.4%	3 1.5%	2 1.5%	10 1.8%	
4南新宿検査・相談室	16 7.8%	35 17.0%	22 16.8%	73 13.4%	
5HIVcheck.jp	24 11.7%	33 16.0%	17 13.0%	74 13.6%	
6郵送検査	9 4.4%	9 4.4%	5 3.8%	23 4.2%	
7イベントHIV検査会	7 3.4%	1 .5%	4 3.1%	12 2.2%	
8その他	14 6.8%	7 3.4%	0 0.0%	21 3.9%	
一番最近に受けたHIV検査の結果は知っていますか?					
1結果を聞いた	200 98.5%	204 100.0%	127 97.7%	531 98.9%	0.122
2結果を聞かなかった	3 1.5%	0 0.0%	3 2.3%	6 1.1%	
あなたはHIV検査を定期的に受けていますか?					
16か月またはそれより短いペースで受け	56 22.6%	36 16.6%	21 15.0%	113 18.7%	0.193
2おおよそ1年に一度のペースで受けてい	53 21.4%	53 24.4%	41 29.3%	147 24.3%	
3特にペースは決めていない	139 56.0%	128 59.0%	78 55.7%	345 57.0%	

受検者アンケート集計 (4)

	20歳代		30歳代		40歳代		全体		有意差
これまでに次の性感染症にかかったことがありますか?_1 どれもない									
どれもなし	259	82.0%	166	69.7%	91	57.6%	516	72.5%	0.000
梅毒	12	3.8%	24	10.1%	22	13.9%	58	8.1%	0.000
A型肝炎	0	0.0%	4	1.7%	3	1.9%	7	1.0%	0.058
B型肝炎	2	.6%	15	6.3%	18	11.4%	35	4.9%	0.000
C型肝炎	0	0.0%	1	.4%	2	1.3%	3	.4%	0.134
淋病	7	2.2%	22	9.2%	13	8.2%	42	5.9%	0.001
クラミジア	18	5.7%	29	12.2%	22	13.9%	69	9.7%	0.005
HIV感染症	1	.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	.1%	0.534
その他	14	4.4%	5	2.1%	7	4.4%	26	3.7%	0.295
過去1年間に次の性感染症にかかったことがありますか?_1 どれもない									
どれもなし	288	91.4%	217	91.2%	148	94.3%	653	92.0%	0.484
梅毒	5	1.6%	5	2.1%	2	1.3%	12	1.7%	0.808
A型肝炎	0	0.0%	3	1.3%	1	.6%	4	.6%	0.145
B型肝炎	0	0.0%	2	.8%	0	0.0%	2	.3%	0.137
C型肝炎	0	0.0%	2	.8%	0	0.0%	0	0.0%	—
淋病	5	1.6%	4	1.7%	0	0.0%	9	1.3%	0.273
クラミジア	6	1.9%	7	2.9%	5	3.2%	18	2.5%	0.627
自分が今HIV陽性である可能性はどの程度だと考えていますか?									
1高いと思う	5	1.6%	4	1.7%	2	1.3%	11	1.5%	0.154
2五分五分くらいだと思う	32	10.2%	13	5.5%	7	4.4%	52	7.3%	
3低いと思う	168	53.3%	145	60.9%	105	66.5%	418	58.8%	
4わからない	109	34.6%	75	31.5%	43	27.2%	227	31.9%	
5すでにHIV陽性の診断を受けている	1	.3%	1	.4%	1	.6%	3	.4%	

資料 3 ウェブサイト HIVcheck.jp スマートフォン版



ウェブサイト HIVcheck.jp PC版





新宿二丁目にまたついでに
あんしん
HIVチエック。

新宿二丁目に来たついでに
ぶらっと検査キットを受け取る。
自宅でカンタンに血液採取し、
検査機別に郵送する。
後日、ウエブで結果を確認。
これだけで、カンタンに
じぶんの健康チエック!

新宿二丁目センター
aktaで
検査キットを拝借します。
毎週月曜日
19:00~22:00
新宿区新宿2-15-13
第二ビル2F301

無料
匿名

新宿二丁目! aktaでゲット! 自宅でチエック!
GOGO-BOY SASUKE, DOUG, SIO が参る
HIVcheck.jp

特別記事広告



じぶんでカンタン、あんしんHIVチェック。

手順はたったこれだけ!! 「月曜日」は akta に検査キットをゲットしに行こう!!



1 エレベータを降りたら、検査受付カードを取ります



2 検査受付カードをスタッフに渡します



3 簡単なアンケートと研究同意書に記入します(とく名です)



4 アンケートの中身をスタッフは見ません
自分で回収ボックスに入れます



5 スタッフから検査キットの注意点についてガイダンスがあります



6 検査キットを受け取ります
ここまで5分程度です



7 相談専門のスタッフがあります
気軽に話してみてください(1人15分程度)



8 HIV 情報パンフレットなど各種あるので、必要なものは持ち帰ることができます



9 検査の結果をウェブサイト
HIVcheck.jp で確認



コミュニティセンター akta

東京都新宿区新宿2-15-13 第二中江ビル301
(開館日) 16 ~ 22時
(休館日) 火・水曜日、年末年始
tel.03-3226-8998 www.akta.jp

aktaは新宿二丁目にあるHIV/エイズをはじめとしたセクシュアルヘルスの情報センターです。どなたでもご利用いただけるオープンスペースです。HIV/エイズの最新情報や検査のこと、またHIV陽性者やその周りの人たちの手記に触れることもできます。



HIVチェックは、ゲイ/バイセクシュアル男性を対象に、HIV検査を多くの方に受検してもらうため、HIV検査キットを用いた検査を複数の専門機関が協働して、企画・実施しています。NPO法人aktaは検査の広報と検査キットの配布、NPO法人ふれいす東京は受検者・陽性者への相談支援を、国立国際医療研究センターACCは検査の実施と検査結果の告知を担当しています。

またこの検査は厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」が研究として20歳以上のゲイ/バイセクシュアル男性を対象に無料、匿名で実施する検査です。この検査についての問い合わせは、メールアドレス(info_hivcheck@acc.nigms.go.jp)をお願いします。

キャンペーンモデル / SASUKE, DOUG (滝沢ダグラス), SIO 企画・制作 / akta
写真 / EISUKE 漫画 / いんお イラスト / ノリスケ 編集・協力 / Bad (テラ出版)

2018年10月 キャンペーン②「定期的に受けられる！」

キャンペーンサイトスマートフォン版



スペシャルデー 広報



aktaでゲット!
自宅でチェック!

HIVcheck.jp
スペシャルデー

無料
匿名 9/2日 19:00~23:00まで

ハッテン場 広報



ハッテン場で
ゲット!
自宅でチェック!

HIVcheck.jp

6月9日(土)
19時~22時

無料
匿名

HIVcheck スペシャルデー

at community center mabui

2/16^土
13:00~16:00

先着
50名
まで

コミュニティセンターmabuiで
検査キットを
この日受け取れます!

ゲイ・バイセクシュアル男性に
無料・匿名で郵送して使う
HIV検査キットをお渡します。
この時間、専門の相談員による
相談もお受けします。

コミュニティセンター mabui

沖縄県那覇市壺屋1-7-5 民衆ビル3F
tel: 098-862-0114 (木~日18:00~21:00)
mail: office@nankr.jp

mabuiでゲット、自宅でチェック!

mabuiで
キットを受け取る



自宅で
採血する



検査機関に
郵送する



HIVcheck.jpで
検査結果を確認



要確認検査の場合は
病院を予約できる

無料・
匿名
くわしくはコチラ



HIVcheck.jp 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」

illust: づんた